第1節 資本蓄積の停滞基調 ― 資本と労働力の構造的過剰化傾向 ―

(1) 問題の所在

社会的総資本の拡大再生産の急速な進展の可能性

独占段階＿＿競争段階

- 大規模な生産能力
- 豊富な蓄積基金
- 信用による社会的資金の動員力
- 技術開発能力

But この可能性の現実化が阻止される

⇒独占段階固有の停滞基調が支配

① 労働者の消費制限

(a) 資本主義一般における＜生産と消費の矛盾＞

生産の無制限的拡大傾向と労働者の消費制限＝＜生産と消費の矛盾＞

⇒競争段階においては規則的な景気循環・周期的な過剰生産恐慌の爆発という形態で運動・展開

(第 3 章序節参照)

(b) 独占段階における消費制限

独占的価格協調による価格支配⇒

- 独占資本＝＿＿＿＿＿の獲得(低い消費性向)
- 労働者＝＿＿＿＿＿⇒競争段階以上の消費制限
- 小生産者層＝＿＿＿＿＿⇒経営難・消費制限

② 生産の「自立」的・「無制限」的拡大

独占価格による消費制限(その他の条件が同一ならば)

⇒社会全体の再生産規模を＿＿＿＿させるように作用 ⇒独占段階の停滞化傾向

(a) 競争段階における生産の無制限的拡大傾向

個別資本の投資行動⇒最終消費から「自立」的に

全般的な市場拡大・急速な拡大再生産の進展をもたらす＿＿＿起動力が存在

(b) 独占段階における急速な拡大再生産の潜在的可能性

独占価格による収奪

⇨ ┌ 最終消費需要の＿＿＿
　 └ 独占資本の資本蓄積基金の＿＿＿

増大した蓄積基金が投下された場合

⇒最終消費の削減がなかった場合に比べて，より急速な再生産規模の拡大が現実化

＊問題は，資本主義経済の発展の牽引力である＿＿＿＿とその市場・生産への影響が

独占段階ではどうなるか ？

(2) 生産＝市場拡大の内的起動力

① 競争段階の生産＝市場拡大の内的起動力

新生産方法の率先的導入競争⇒特別剰余価値(特別 M)の獲得

新生産方法の普及⇒特別 M の減少・負の特別 M の増大

競争による新生産方法導入の＿＿＿作用

⇒更新・新投資の群的・集中的展開

⇒ I 部門(特に労働手段生産部門)への＿＿＿の群的発生

② 独占部門の生産＝市場拡大の内的起動力

(a) 新生産方法導入の誘因

┌ 旧式設備の残存価値の問題
└ 生産能力の階段状の増大と販路の問題

⇒導入は旧式設備の＿＿＿終了後に一部の独占企業によって導入される

⇒競争段階に比べて新生産方法導入は＿＿＿傾向

(b) 競争の強制作用

一部の独占企業による新生産方法導入

⇒価格切下げの回避＝＿＿協調の維持

⇒競争による導入・普及の強制作用の＿＿

(c) 新生産方法の排他的利用

排他的に利用できる企業による導入は旧式設備の充分な＿＿＿後

ライバル企業は類似技術を開発しない限り導入できない

⇒新生産方法導入と類似技術の普及の極端な＿＿＿

(d) 更新投資の群的発生の可能性

新生産方法導入にともなう更新投資の群的発生の可能性は＿＿＿

⇒労働手段生産部門を中心とするⅠ部門に対して需要を一挙に拡大していく作用は著しく＿＿＿

(e) 独占部門の一国経済に占める位置

i) 独占的市場構造が成立する部門

投下資本額・固定設備額・原料購入額・生産額などが巨額

資本の＿＿＿構成も高い生産部門

＊一国経済の再生産構造において基幹的で重要な位置を占める部門

＝＿＿＿＿＿の群生を梃杆として，社会全体の市場拡大・生産拡大において

中心的な役割を果たしていく基幹的産業部門

なぜ，このような生産部門が独占部門になるのか？

ii) 基幹的産業部門の特徴

1. 大量の需要⇒＿＿＿生産の必要性

⇒機械制大工業が急速に発達

⇒生産方法の改良・＿＿＿上昇の急速な進展

2. 需要の大幅な変動

景気回復・好況期において設備投資の群生による急速で大幅な需要拡大

⇒巨額の設備投資・生産拡大

好況末期において＿＿＿の急速な減少⇒需要の急速で大幅な縮小を経験する部門

3. 資本の集積・集中

景気循環の繰り返し⇒

資本の有機的構成の＿＿＿＿

最低必要資本量の＿＿＿＿

⇒資本の集積・集中の運動が強力に進展

⇒独占的市場構造の形成

＊基幹的産業部門⇒独占部門

市場が停滞的な場合：＿＿＿＿＿の群的発生がほとんど期待できない

⇒独占段階において市場拡大を惹起していく内的起動力が大幅に＿＿＿

③ 非独占部門の生産＝市場拡大の内的起動力

(a) 収奪による蓄積基金の削減

非独占部門＝多数の＿＿＿的企業が活動

独占企業による収奪⇒

投資に充てるべき蓄積基金の＿＿＿＿

信用による社会的資金の動員力が＿＿＿＿

(b) 独占部門に直接関連する部門

生産手段購入や部品供給において関連独占企業による事実上の＿＿＿＿

(c) 独占部門に直接関連しない部門

非耐久消費財部門(多品種少量生産・労働集約的)

設備投資競争の展開 ⟹ Ⅰ部門への大量の需要

(3) 関連部門の市場＝生産の誘発的拡大メカニズム

① 需要拡大の加速度的波及メカニズム

投資財需要が全体の需要拡大・生産拡大をどの程度誘発するか？

⇒関連生産部門に＿＿＿＿＿投下を含む設備投資を誘発するかどうか

固定資本を含む設備投資⇒需要拡大は関連生産部門に＿＿＿＿的に波及

② 競争段階における I 部門の不均等的拡大のメカニズム

設備投資の群生→ I 部門への群的な需要発生

⇒＿＿＿＿な設備投資競争⇒諸関連部門の相互促進的・加速度的需要拡大

③ 独占段階における需要の加速度的拡大の制約

(a) 余裕能力の存在

1. 需要の一時的変化への対応

独占部門への需要の波及⇒＿＿＿＿＿＿の活用

＝稼働率の上昇による生産量＝供給量の増大で対応

2. 参入障壁

需要増大の程度が部門内既存企業の保有する＿＿＿＿＿＿の範囲内

⇒参入障壁は低下＿＿＿＿⇒他部門の企業による参入の可能性は

＊設備投資の誘発⇒関連部門への波及の可能性

(b) 独占企業の慎重な投資行動

需要拡大が余裕能力を超えるような規模

⇒各独占企業は需要拡大の動向を慎重に予測

⇒大幅な需要拡大でない限り価格＿＿＿＿の維持を優先

⇒設備拡張投資を実行しない

＊独占企業の慎重な投資行動⇒需要拡大の＿＿＿＿的な波及は抑制

(c) 設備投資需要の波及

1. 設備投資需要の波及する部門

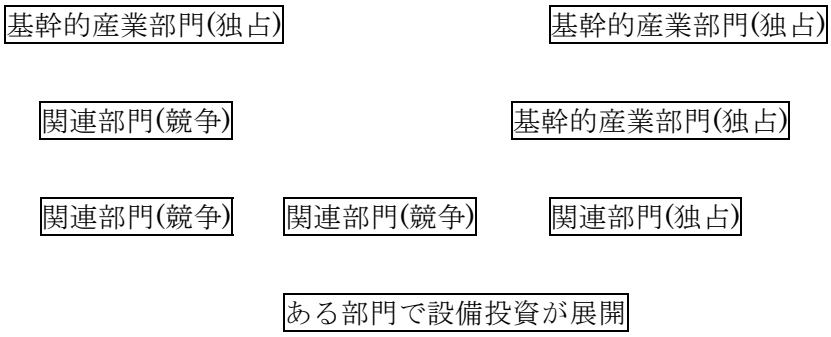
巨大産業の中枢的な労働手段や各種産業に広く利用される労働手段を生産する部門

これらのための原材料生産部門(鉄鋼などの金属，化学製品，動力・燃料，建設資材)など

＝基幹的産業部門＝＿＿＿＿部門

2. 投資需要の波及と独占部門

➡固定資本を含む群的な需要拡大　　⇨流動資本関連のみの需要拡大



(4) 景気の自動回復的メカニズムの麻痺

一国経済における基幹的産業部門

＝急速な拡大再生産メカニズムにおいて重要な位置を占める生産部門　＝＿＿＿部門

独占企業：余裕能力の保有・慎重な設備投資行動

⇒需要拡大の発生→関連部門への波及⇒独占部門に波及

＊独占部門で生産・投資の＿＿＿＿的拡大が誘発されない限り，

経済全体の拡大・資本蓄積の強力な進展を促していく作用は著しく弱まっている

独占段階では不況からの自動的回復メカニズムの 2 本柱がいずれも＿＿＿＿

(5) 停滞基調

競争段階の景気の自動回復メカニズムの麻痺

⇒社会的総資本の蓄積＝拡大再生産の進行を＿＿＿＿にする基本的傾向が支配

＝独占資本主義段階の停滞基調

① 停滞基調の意味

資本蓄積や生産力向上が全くないということではない

(a) 新生産方法の導入

設備＿＿＿＿の新生産方法導入⇒資本規模・生産能力の＿＿＿

(b) 販売努力による販路拡大

販売努力による自己の販路拡大の成功⇒＿＿＿＿＿投資を行なう可能性

販売努力⇒その部門の市場＿＿＿⇒他の競合的な部門の市場＿＿＿

⇒当該部門の複数の独占企業が設備拡張投資を行なう可能性

(c) 非独占的競争部門における設備投資

非独占部門＝競争の全面的支配

⇒新生産方法導入・普及の促進・強制メカニズムの作用

⇒生産力向上と結びついた設備投資の＿＿＿＿

② 独占段階の資本蓄積・生産力向上の性質

(a) 設備投資の群的発生の可能性

ある独占企業が設備拡張投資を実行

⇔独占企業固有の＿＿＿＿投資行動

⇒競争的な設備拡張投資競争の＿＿＿＿

⇒設備投資の群的・集中的展開の可能性は＿＿＿＿

(b) 投資需要の加速度的誘発作用

設備投資の群的発生

⇒需要の波及は独占部門の＿＿＿＿＿により吸収

⇒設備投資需要の加速度的誘発作用は強く＿＿＿＿

(c) 市場の大幅な拡大の可能性

外的な要因(新生産部門の形成や対外膨張)による市場の大幅な拡大という条件がない限り

社会的総資本の拡大再生産過程を＿＿＿的とする基本的傾向が支配

(6) 独占段階における＜生産と消費の矛盾＞の発現の変化

① 競争段階における＜生産と消費の矛盾＞の展開

(a) 資本蓄積の無制限的拡大傾向

1. 最大限の価値増殖欲と競争の作用

個別資本の最大限の利潤の追及

諸資本間の競争⇒生産力向上・資本蓄積の＿＿＿＿

⇒労働者の制限された消費のもとでも資本蓄積は「＿＿＿＿」的に拡大する傾向

2. 景気回復と好況

更新・新投資の集中的展開⇒関連部門での＿＿投資の誘発と加速度的波及

(b) 労働者の消費制限と過剰生産恐慌

1. 消費制限のもとでの急速な拡大再生産

労働者１人あたりの消費拡大メカニズムの＿＿

⇒「生産拡大のための＿＿拡大」⇒雇用増大による労働者の消費総額の増加

設備投資需要拡大の鈍化⇒生産＿＿が顕在化

2. 過剰生産恐慌

生産過剰⇒労働力過剰

相対的過剰人口の＿＿と＿＿の繰り返し

生産・資本蓄積の無制限的拡大⇒労働者の消費制限⇒市場条件による拡大の限界

＊＜生産と消費の矛盾＞は，ある時期には市場の諸条件に制約されないかのような生産の無制限的な拡大過程が出現し，やがて制限された労働者の消費に直接・間接に規制された市場の諸条件が，この拡大過程を限界づけるという形態で展開する。

② 独占段階における＜生産と消費の矛盾＞の発現

(a) 労働者の消費制限の強化と生産の無制限的拡大傾向の抑制

1. 労働者の消費制限の強化

- 独占による＿＿(消費手段の独占価格支配)
- 停滞基調の下での労働力の慢性的＿＿(名目賃金の上昇の＿＿)

2. 生産の無制限拡大傾向の抑制

- 生産・市場拡大の内的起動力の＿＿
- 市場・生産の相互誘発的拡大メカニズムの＿＿

(b) 拡大再生産の急速な進展の可能性と資本・労働力過剰の慢性化

＜生産と消費の矛盾＞

拡大再生産の急速な進展の可能性が豊富に存在

⇔その可能性の現実化が阻止され，＿＿的な資本過剰と労働力過剰の並存が支配

＝構造的なものとして定着

1. 貨幣資本の過剰の慢性化

独占企業：独占利潤の収奪⇒巨額の蓄積基金

- 市場停滞の下での資本投下先の＿＿＿
- 独占価格支配の維持のための＿＿＿＿投資行動

⇒慢性的な貨幣資本の遊休化

2. 生産資本の過剰の慢性化

- 需要の大幅拡大期における設備拡張投資競争
- 予測を超える需要の縮小の場合

⇒＿＿＿＿＿生産能力の過剰が生じる傾向

最劣等の企業でも強力な＿＿＿＿をもつ独占企業

⇒倒産による過剰生産能力解消の可能性は＿＿＿

⇒慢性的な生産資本の過剰

3. 労働力過剰の慢性化

資本の有機的構成(C/V)の高度化→相対的過剰人口の創出作用

停滞基調⇒＿＿＿＿＿による新生産方法導入⇒雇用労働力の＿＿的減少作用が強く働く